

プラスチックごみを 減らすライフスタイルを

プラスチックごみを減らすためには、
無理にプラスチックを使わないようにするのではなく、
長く、繰り返し使うなど上手に付き合うことが大切です。
できることからチャレンジして、プラスチックを上手に利用していきましょう。

1 | マイバッグでお買い物

有料化前、日本では年間300億枚ものレジ袋ぶくろが使われていると言われていました。レジ袋をもらわないこと=プラスチックごみを減らすことにつながります。



2 | マイボトルを持ち歩こう

お出かけのときはマイボトルを持ち歩いて、ペットボトル等のプラスチック製の使い捨て容器せいすようきを使わないようにしましょう。自分のお気に入りのものを見つけるのも楽しいですね。



3 | シャンプー・洗剤等は詰め替えを

毎回容器ごと買い替えているとごみもかさばってしまいます。詰め替えつめかのものを使ってごみを減らしましょう。



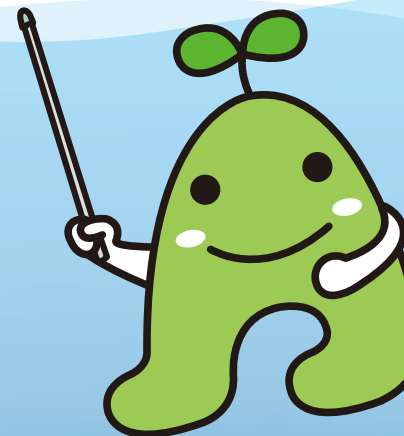
4 | 使い捨てスプーン・ストローは断ろう

家で食べる時は、コンビニなどでもらう使い捨て食器すしよつきは断りましょう。また、外出時に箸やスプーンを持ち歩くこともオススメ。意識して使い捨てのスプーンやストローを断りましょう。



プラスチック ごみを減らそう

私たちの身のまわりで多く使われているプラスチック。
便利な一方で、近年、処理されずに
海へ流れ出たプラスチックごみや
マイクロプラスチックは世界的な問題となり、
魚などの海洋生物体内に取り込まれ、
生態系せいたいけいに悪影響を及ぼすと心配されています。
こうした現状げんじょうを改善するためには、
私たちが生活する中でプラスチックごみを
出さないようにすることが大切です。



秋田市環境部環境都市推進課

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号
TEL: 018-888-5708 FAX: 018-888-5707
Eメール: ro-evcp@city.akita.lg.jp

プラスチック ごみ問題の現状



海洋生物はもちろん、
魚介類を食べる人間の
健康被害も心配されているよ

海洋プラスチック

海に流出するプラスチックごみの量は、世界中で年間800万トン、2050年までにプラスチックごみが魚の量を上回る、という予測もあります。

海岸でのポイ捨てや海上での不法投棄によるものだけではなく、陸上で私たちの生活から出たごみが雨や風によって川や水路に入り、海に流れ込むことで海洋プラスチックとなります。



2018年7月撮影



これはマレーシアのコタキナバルという都市の海岸の様子。生活する場所の近くにまでプラスチックごみが流れてきているんだ……。

マイクロプラスチック

海に出たプラスチックごみは波や紫外線で細かく砕かれ、有害な化学物質を吸着しやすい小さな破片になります。大きさが5mm以下になったプラスチックを、マイクロプラスチックと言います。

小さな魚がプランクトンと間違えて食べてしまい、更に大きな魚がその魚を食べることによって蓄積され、生態系全体や人体に及ぼす影響が懸念されています。

ワンウェイプラスチック削減

一度だけ使用した後に廃棄することが想定されるプラスチック製品のことを、「ワンウェイプラスチック」と言います。不要な場合は断るなど、使い捨てプラスチックを削減する心がけが大切です。

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が令和4年4月1日に施行され、捨てることを前提とせずに、大切な資源の循環を促進していくための法整備も進んでいます。